

報道関係各位

岩手県立大学

2019年度「輝ける！インターゼミナール大会」の開催について

岩手県立大学総合政策学部 伊藤ゼミでは、毎年度、複数大学のゼミが一堂に会し、特定のテーマについて討論する「インターゼミナール」に取り組んでいます。

今年度は8大学の学生 計 82名が集まって「市町村における自主財源の減少にいかに対処すべきか」をテーマに討論を行います。岩手県内のインターゼミナールとしては規模が大きく、参加する学生にとっても研究活動や大学間交流に有意義である、貴重な機会です。

本学のゼミナール教育と、学生が地方、また、地方財政のありようについて活発な議論を交わす姿をぜひ取材の上、報道くださいますようお願いいたします。

記

1 日時

令和元年12月7日（土）13:00～17:00

2 場所

岩手県立大学 共通講義棟2階（201・205・206・207 講義室）

3 内容

(1) テーマ：市町村における自主財源の減少にいかに対処すべきか

(2) 概要：各大学のゼミごとにパート（チーム）を結成。

本大会では4パートで1団体を構成し、団体内でプレゼンテーションと討論を行ったのち、相互評価による順位付けを実施。

その後、教員による講評等を経て閉会。

(3) 詳細：別紙のとおり

4 参加者

(1) 人数：学生82名、教員10名（本大会の運営スタッフ含む）

(2) 参加大学：秋田大学、岩手県立大学、山形大学、東北文化学園大学、敬愛大学、高千穂大学、神戸学院大学、広島修道大学

5 留意事項

(1) 取材いただける場合は、下記問合せ先に事前連絡をお願いします。不明な点等がある場合は、この事前連絡時に照会ください。

(2) 当日の学生及び教員に対する取材は、懇親会時（12/7 17:30～19:00 学生食堂2階）をお願いします。

(3) 参加学生の円滑な議論のために、本大会の公開の対象は、報道機関の方、本学部の教員及び学生のみとします。

【問合せ先】2019年度「輝ける！インターゼミナール大会」事務局

岩手県立大学総合政策学部 准教授 伊藤健宏

TEL：019-694-2780(研究室直通)/email：t_itoh@iwate-pu.ac.jp

(別紙)

2019年度「輝ける！インターゼミナール大会」日程等

岩手県立大学 伊藤健宏

1. タイムスケジュール

2019年12月7日(土)：岩手県立大学 滝沢キャンパス 共通講義棟 2階

時刻	事項	所要時間(分)	会場							
12:30-13:00	受付・集合		共通講義棟 201 講義室							
13:00-13:20	開会挨拶・運営説明	20	共通講義棟 201 講義室							
13:20-13:30	報告準備	10	各講義室							
13:30-14:40	<table border="1"><tr><td>A 対 B</td></tr><tr><td>Aのプレゼン (15分)</td></tr><tr><td>Bのプレゼン (15分)</td></tr><tr><td>AからBへの質疑応答 (15分)</td></tr><tr><td>BからAへの質疑応答 (15分)</td></tr><tr><td>C, Dからの質問 (5分)</td></tr><tr><td>予備時間 (5分)</td></tr></table>	A 対 B	Aのプレゼン (15分)	Bのプレゼン (15分)	AからBへの質疑応答 (15分)	BからAへの質疑応答 (15分)	C, Dからの質問 (5分)	予備時間 (5分)	70	共通講義棟 201・205・206・207 講義室
A 対 B										
Aのプレゼン (15分)										
Bのプレゼン (15分)										
AからBへの質疑応答 (15分)										
BからAへの質疑応答 (15分)										
C, Dからの質問 (5分)										
予備時間 (5分)										
14:40-14:50	休憩	10								
14:50-16:00	<table border="1"><tr><td>C 対 D</td></tr><tr><td>Cのプレゼン (15分)</td></tr><tr><td>Dのプレゼン (15分)</td></tr><tr><td>CからDへの質疑応答 (15分)</td></tr><tr><td>DからCへの質疑応答 (15分)</td></tr><tr><td>A, Bからの質問 (5分)</td></tr><tr><td>予備時間 (5分)</td></tr></table>	C 対 D	Cのプレゼン (15分)	Dのプレゼン (15分)	CからDへの質疑応答 (15分)	DからCへの質疑応答 (15分)	A, Bからの質問 (5分)	予備時間 (5分)	70	共通講義棟 201・205・206・207 講義室
C 対 D										
Cのプレゼン (15分)										
Dのプレゼン (15分)										
CからDへの質疑応答 (15分)										
DからCへの質疑応答 (15分)										
A, Bからの質問 (5分)										
予備時間 (5分)										
16:00-16:20	投票用紙への記入・提出、休憩	20								
16:20-16:40	フリーディスカッション	20								
16:40-17:00	会場毎の講評・全体講評・閉会挨拶	20	共通講義棟 201 講義室							
17:00-17:30	記念撮影・移動	30	共通講義棟 201 講義室							
17:30-19:00	懇親会	90	岩手県立大学生協食堂 2階							

2. 会場とパート割り振り

<201 講義室>

司会教員：(A v B)矢口・(C v D)迫

- A：東北文化学園大学・久保田ゼミ・チーム B VS B：広島修道大学・迫ゼミ
C：敬愛大学・矢口ゼミ・銚子市パート VS D：神戸学院大学・石田ゼミ・A チーム

<205 講義室>

司会教員：(A v B)石田・(C v D)坂本

- A：山形大学・坂本ゼミ VS B：高千穂大学・迫ゼミ・障碍班
C：岩手県立大学・伊藤ゼミ VS D：神戸学院大学・石田ゼミ・B チーム

<206 講義室>

司会教員：(A v B)河合・(C v D)荒井

- A：秋田大学・荒井ゼミ・チーム山崎 VS B：神戸学院大学・石田ゼミ・C チーム
C：敬愛大学・矢口ゼミ・千葉市パート VS D：広島修道大学・河合ゼミ

<207 講義室>

司会教員：(A v B)米田・(C v D)久保田

- A：東北文化学園大学・久保田ゼミ・チーム A VS B：高千穂大学・迫ゼミ・労働班
C：秋田大学・荒井ゼミ・チーム S VS D：敬愛大学・米田ゼミ

全体講評：貝山(東北文化学園大学)

3. 学生審査

- 討論会終了直前(16 時前)に運営スタッフが投票用紙を各パート代表に配布し、3パート(ゼミ)のそれぞれの順位を書いて投票する(ただし、自パート(ゼミ)には投票できない)。審査用紙は16:10をめぐりに運営スタッフが回収する。
- 1位は5点、2位は3点、3位は1点とする。例えばあるパートの得票が、1位:1票、2位:0票、3位:2票であれば、 $(1 \times 5) + (0 \times 3) + (2 \times 1) = 7$ 点となる。これをパートごとに算出して、最終順位を割り出す。

(今大会の解題)

テーマ：

市町村における自主財源の減少にいかに対処すべきか。

解題：

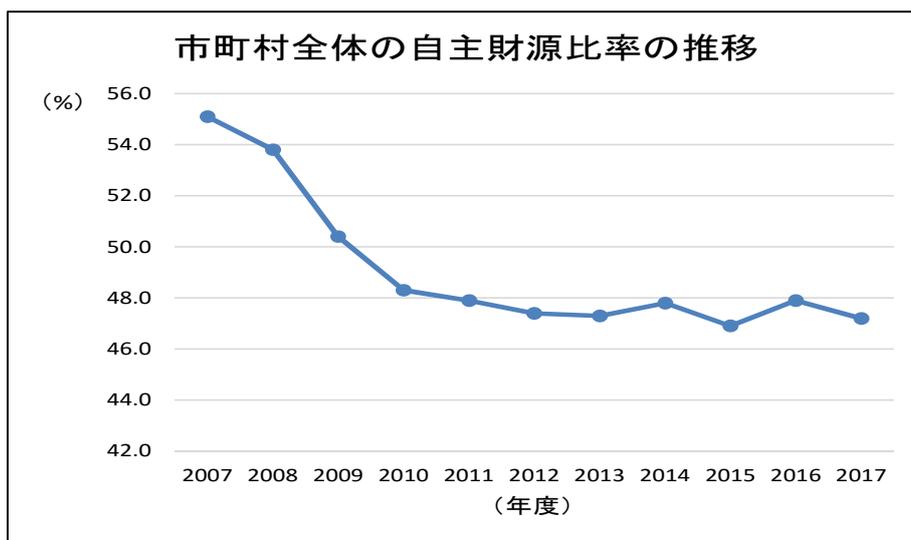
市町村が自ら集められる地方税などの自主財源は減少傾向にあり（下図）、人口減少や高齢化に伴い、この傾向はしばらく続くものと思われます。一方、自主財源の地域間格差を補う役割を果たしてきた地方交付税などの財源移転についても、国の財政状況を勘案すれば、今後、多くを期待することはできません。

自主財源が減少していくと、それを補う別の財源が確保されない限り、各自治体は少なくとも長期的には歳出を切り詰めざるを得ません。したがって、何らかの創意工夫や技術革新でもなければ、これまでの行政サービスの水準を維持することは困難になります。行政サービスの水準が維持できなければ、人口減少が進み、自主財源が一層減少することにもなりかねません。こうした問題にいかに対処したらよいかというのが今回のテーマです。

議論の方向としては、国全体の視点から、地方税制の改革（税源移譲や法定外税などのように）、地方交付税制度の改革（新型交付税やトップランナー方式などのように）、地方創生交付金の創設、ふるさと納税の導入などのような制度改変による対処を議論してもよいです。この場合、国の財政状況が制約的であることから、国の財政健全化とどう折り合いをつけるかが問われます。いわゆる選択と集中の議論も必要となるでしょう。

また、〇〇市や〇〇地方のように、具体的な地域を設定して議論しても構いません。この場合、いかに税収を増やしたらよいか、自主財源の減少に対応すべく、いかに歳出を減らしたらよいか、あるいは、いかなる歳出の増加（政策）を梃子にして、それを上回る税収の増加を図るかなどが議論になると思われます。

このインゼミでは、昨年度までの数年間、人口減少対策や地方創生策をテーマにしました。今年度は、再び「地方」の問題を取り上げ、採られるべき政策をその財源的な裏付けを踏まえつつ議論したいと思います。学生らしい発案による実行可能な提言に期待しています。



※自主財源は、自治体が自らの権能に基づいて自主的に収入できる財源で、自主財源比率は、歳入総額に占める自主財源の比率である。自主財源は、地方税、分担金及び負担金、使用料、手数料、財産収入、寄附金、繰入金、繰越金、諸収入からなる。